

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：人間形成と思想

部会長名：大坪庸介

作成者名：大坪庸介

概要（2 ページ）

（1）組織・運営について

平成 29（2017）年度の本教育部会は、大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 10 名、国際文化学研究科 1 名、人間発達環境学研究科 18 名、保健学研究科 4 名、海事科学研究科 1 名、の計 37 名から構成され、教育部会長 1 名（人文学研究科）、幹事 2 名（人間発達環境学研究科、国際文化学研究科）が世話役になり、運営された。

（2）実施状況について

・開講科目、カリキュラムなど

基礎教養科目として「哲学」(4)、「倫理学」(4)、「論理学」(6)、「心理学 A」(10)、「心理学 B」(8)、教育学 A (6)、教育学 B (3) の 1 単位科目 7 科目を計 41 コマ、総合教養科目として「科学技術と倫理」(4)、「教育と人間形成」(3) の 1 単位科目 2 科目を計 7 コマ、専門教養基礎科目として「心と行動」という 2 単位科目 1 科目を計 1 コマ分、全体で 10 科目（うち 1 単位科目 9 科目・2 単位科目 1 科目）49 コマが開講された。

「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と 5 人の非常勤講師により、「心理学 A」、「心理学 B」、「心と行動」は大学教育推進機構、人文学研究科、国際文化学研究科、海事科学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学 A」「教育学 B」、「教育と人間形成」は大学教育推進機構と人間発達環境科学研究科の教員により行われた。

・今年度の工夫・改善点

昨年度からクォーター制が導入され、哲学、倫理学、論理学は 1 単位科目となり、心理学・教育学は従来の 2 単位分を A と B の大きなカテゴリーの 2 つに分けて授業を実施するようになった。昨年度はこれまでとの時間配分などでシラバス等にも混乱がみられる箇所があったが、今年度はその体制も定着、授業内容もより整理されたものになった。例えば、心理学では実験系の心理学を心理学 A とし、発達・臨床系の心理学を心理学 B とした区分が定着した。教育学については、教育学の導入的内容を教育学 A とし、現代的教育問題などを扱うものを教育学 B とした区分が定着した。その一方、従来 2 単位科目であった哲学、論理学は半分の 1 単位科目になり、昨年度は授業時間が足りない等の問題が指摘されたが、今年度は授業時間数も定着してきている。昨年度より新設された倫理学も基礎教養科目として定着してきた。

・現状と評価

「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようや思想の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学 A・心理学 B）、③教育学領域（教育学 A・教育学 B）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。また、総合教養科目として「科学技術と倫理」、「教育と人間形成」という現代的な問題を扱う科目を提供し、現代的なニーズにもこたえるよう配慮した科目配置となっている。つまり、人間形成と思想教育部会は期待される教育内容をカバーする科目を提供している。また、多くの科目が 100 人以上の大教室の講義となっていることから、学生にも重要な教養科目として認識されているものと考えられる。

（3）課題について

第 1 の課題として大教室での授業の難しさが挙げられる。近年、大教室であっても学生参加型の授業の実施が求められているが、ほとんどのクラスが 100 名以上の人間形

成と思想教育部会では、必ずしもすべての授業が学生参加型にはなっていないのが現状である。もちろん、これまでも各担当者においては、VTR、DVD、パワーポイント等の視聴覚教材の使用、リアクションペーパーやミニレポートとそれに対するフィードバックなど学生の参加を促すための努力がなされているが、大教室でいかにして十分な学生参加を実現するかが本部会の第1の課題である。

第2の課題としてカンニングなどの事案の発生しない厳格な試験の実施が挙げられる。人間形成と思想教育部会の試験においてカンニングなどの憂慮すべき事案はH29年度に発生していない。しかし、ほとんどの講義が100名以上の履修者を抱える当部会の授業において、厳格な試験の実施のためには履修者を2つ以上の教室に分けての試験実施が必須と言える。しかし、利用可能な教室数の制限などもあり、必ずしもすべての講義科目において複数試験室での試験実施が実現されていないのが現状である。可能な限り複数受験室での試験の実施が必要と考えられる。

第3の課題として哲学系科目の数をいかにして確保するかという問題が挙げられる。哲学関連科目は「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」という4科目が設定されているが、これを人文学研究科の5人の教員と非常勤講師が担当しているのが現状である。実際、論理学については専任教員がひとりも担当していないのが現状である。また、今後、人文学研究科の哲学関連教員が退職した後、すぐには後任の補充が難しい可能性が高い。このことから哲学に関連する4科目をどのように維持していくかが今後の課題となる。

第4の課題として、内容が半分になった科目について大学教養レベルの内容をいかに保証するかという問題が挙げられる。これは、特に専任教員不足により2単位科目を1単位科目にした哲学系科目で顕著である。各教員レベルでは、クォーターの限られた時間内容で教育を行うということに慣れてきている面はあるが、従来の1/2の時間で大学教養レベルと呼ぶにふさわしい内容が教育できているかどうかについては今後の検討が必要である。教員数が十分にいるのであれば哲学1・哲学2や論理学1・論理学2といった授業を設置するのが望ましいところであるが、教員数不足の問題と併せて考えていく必要がある。

(4) 総合所見

全体として人間形成と思想部会の講義は必要とされる科目をバランスよく提供しているということができる。H29年度はクォーター制の下での授業もある程度定着してきており、概ね期待通りの教育成果をあげたと考える。今後の課題としては、大教室での学生参加型授業をいかにして実現するか、大教室の試験でいかに不正を未然に防ぐことができるか、哲学関連科目の教員の不足をいかに補っていくか、クォーター化により内容が半減している科目の内容を今後増やすことができるかどうかの4点である。

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点到る状況（150字以上）

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されたカリキュラムになっている。例えば、各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、

メールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。また、授業中の配布資料も学生のニーズを満たすものである。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、授業中の配布資料、パワーポイントスライド、神戸大学 Learning Management System (LMS) BEEF 上の資料

5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

教育の目的に照らして、講義・演習・実験・実習等の授業形態の組合せ・バランスを適切に保つような工夫をした教育内容、学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は基本的に講義科目であり、その多くが100人を超える大教室科目のため、演習や実験・実習等を取り入れることは難しい。それを補うべく、多くの教員が小テスト、リアクションペーパー及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をしている。

根拠資料

シラバス、授業中の配布資料、回収した小テストなど

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

単位の实質化への配慮として、多くの教員がレポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施、予習・復習課題の導入、試験対策演習の実施を通じて学生の理解を確実なものにするように講義を行っている。このような工夫により、それぞれの講義で各学生が講義の達成目標に到達しているかどうかははかられ、単位の实質化がなされている。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収したレポート・小テストなど

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

人間形成と思想教育部会が提供するのには主に基礎教養科目であるが、これらについては同一名称科目のシラバスの授業テーマ・目標を共通なものにしており、授業内容を反映した適切なシラバスが作成、活用されている。総合教養科目・共通専門基礎科目でも、講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。

根拠資料

縛らず

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとり、配慮を受けることができる状態であった。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に

努めた。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収したコメントなど

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上） 人間形成と思想教育部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され、それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験など結果により、周知された基準に即して適切に成績評価、単位認定が適切に実施されている。
根拠資料 シラバス、配布資料

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上） 人間形成と思想教育部会においては、上記5-3-②の通りに成績評価の基準を策定し、単位認定を行っている。その客観性、厳格性を担保するために、小テストや期末試験は不正行為がないように厳正になされ、採点も厳密になされている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、成績分布

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上） 学生による授業評価の結果として総合評価を見ると、多くの科目で5点満点中平均4点以上の総合評価が得られており、各科目における学習成果が上がっていると考えられる。また、学生からのコメントを見ても、おおむね講義に対する理解度を含めた好意的な感想がよせられている。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、授業振り返りアンケート結果

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上） 神戸大学として自主的学習環境が十分に整備されており、学生は自学自習にその環境を効果的に利用している。
根拠資料 全学で把握している自学自習スペース利用状況等

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上） 人間形成と思想教育部会においては、第1回目の講義の中で、シラバスの内容を含め、当該講義の内容、スケジュール、講義で課される試験や課題の内容、成績評価基準を学生に伝達しており、これがガイダンスとして機能している。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、配布資料、授業で持ちたいパワーポイントスライド

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上） いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとることができた。このことを周知することにより学生のニーズが適切に把握されていた。
根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス